

VISION 2020

特集「真の父母様沖縄訪問21周年記念大会」



「真の愛の家庭」が、世界平和実現の礎 沖縄から新しい平和運動を

文善進・世界本部長お迎えして APTF 沖縄大会

「真の家庭運動と世界平和実現」をメインテーマに、「真の父母様沖縄訪問21周年記念大会」（主催・真の家庭運動推進協議会=APTF）が9月27日午前、沖縄県宜野湾市の「沖縄コンベンションセンター」で開催され、約1700人が集まりました。韓鶴子総裁の代身として文善進・世界平和統一家庭連合世界本部長をお迎えし、青年1万名大会に続く今回の沖縄大会。「真の父母様を沖縄にお迎えしたい」という地元メンバーの21年に及ぶ熱い想いがようやく実を結び、内外ともに恵み多い大会となりました。

気温30度近い夏の日差しと、ノーベル文学賞作家、川端康成が「七色の海」と形容した美しい海が、公式的に初めて沖縄をご訪問された文善進・世界平和統一家庭連合世界本部長一行を温かく迎えました。日本屈指の観光スポットである沖縄は、先の大戦において日米両軍が激突した戦場でもあります。沖縄戦で19万人にも及ぶ日本人が犠牲となり、そのうち沖縄出身の方が12万人以上を占めています。

それゆえ、文善進・世界本部長は26日、沖縄に到着してすぐに夫の朴仁渉氏とご一緒に、南部の平和祈念公園に

向かわれました。世界の恒久平和を祈念して沖縄戦で亡くなった日本、米国、韓国、英国、台湾などの軍人・民間人など合計24万余の氏名が刻まれた記念碑「平和の礎」に献花して犠牲者達の冥福を祈られたのです。

文善進世界本部長は、基調講演の冒頭でそのことに触れ、「世界の紛争と暴力をなくしていくという決意を、さらに強くさせられました。こうした痛みの歴史を、真の愛と恒久の平和という新しい時代へと変えていけるよう共に邁進していきましょう」と呼びかけられました。

また、韓鶴子総裁が21年前に講演のため沖縄を訪問された際、「台風は南から発生して北上するように、沖縄から全国への信仰の炎を燃やすといいね!」と激励されたエピソードを紹介。「沖縄は常に韓総裁の祈りと心情の内にありました。総裁と同じように、私も沖縄の皆様と沖縄の地を心から愛したいと思います。皆様とこのような尊い時間を共にすごさせていただき本当に感謝いたします」と語られ、真のお母様の講演文「未来の平和世界に向かう道」を代読されました。（3面に続く）

- ①控室で写真撮影に応じられる文善進世界本部長ご夫妻
- ②バンド演奏をする吉田ファミリー
- ③文善進世界本部長ご夫妻を見送る青年
- ④青年によるエイサー(沖縄の伝統舞踊)
- ⑤フィナーレでカチャーシー(沖縄の伝統舞踊)を披露
- ⑥歓迎の辞を述べる宋龍天・APTF名誉会長
- ⑦主催者挨拶をする徳野英治・APTF会長
- ⑧挨拶をする咸鎮模・APTF沖縄協議会議長



祝福結婚式を通じて真の家庭実現を 真の家庭拡張し、真の国家、世界へ

文善進世界本部長は、時折感情が高ぶるのを抑えつつ、力強く講演文を読み上げられ、それに応えるかのように、会場を埋めた参加者からは、メッセージの合間に何度も拍手と歓声が沸き起こりました。

真のお母様は基調講演文の中で、「愛の本体でいらっしゃる天の父母様は、常に私たちを助ける準備をいらっしゃいます。すべてのことは、私自身にかかっています。良心を目覚めさせなければなりません。良心は第2の天の父母様です。神霊と真理で常に目をさませて祈り、あらゆることに感謝する生活をすれば、天の父母様の声を聞くようになり、体中が震えるほど愛を感じるようになるでしょう」と強調。

そのうえで、「体と心を統一し、良心に従って分かち合いと奉仕、社会貢献をする真の愛を实践する人は、真の善男善女だと言うことができます。彼らが真の父母様に出会い、真の愛を中心とする祝福結婚式を挙げて真の家庭をつくれれば、その家庭は平和の基地になります。真の家庭は平和世界の核心です。真の家庭が拡張し、真の国家と真の世界の新しい時代を開いていくのです」と語り、今こそ新しい未来を拓く真の家庭運動が必要だと訴えられました。

基調講演に先立ち、徳野英治APTF会長が主催者挨拶をし、「日本と東アジアの平和と安全にとって最も重要なのが

有神論に基づく民主主義・自由主義という価値観を共有する日韓米の連帯の強化であり、真の家庭運動の国民運動レベルへの拡大である」という真の父母様のビジョンを紹介。「アジア全体に対する平和発信の基地であり、真の家庭運動の出発地点こそ、皆様の愛する故郷・沖縄であると改めて宣言したい」と語りました。

また宋龍天・APTF名誉会長は歓迎の辞で、日本社会が直面している少子高齢化について、「若者の経済事情や子育て環境だけでなく、より本質的には、家庭の価値が解らないといった価値観や内面の意識に起因する」と指摘。「この韓鶴子総裁が語られる真の家庭運動こそが、日本の国家再建と持続的な繁栄に欠く事の出来ない救国運動になるものと確信しています」と訴えました。

大会はフィナーレで、文善進世界本部長が沖縄に携えてきてくださった天運を相続しようと、琉球バンドの演奏に合わせて「天運カチャーシー」を会場全体で合唱。

舞台上上がった来賓をはじめ、会場の参加者は立ち上がり、沖縄伝統の踊り「カチャーシー」を舞いながら、盛り上がりました。

最後に、APTF沖縄の^{チョンチョンホ}丁鐘瑚顧問のリードで万歳四唱をした後、文善進世界本部長ご夫妻を中心に会場全体で記念撮影し、大会は閉会しました。



真の家庭運動こそが日本の救国運動 沖縄が平和発信の基地となれ!

【沖縄大会の感想】

世界が一つになる日の到来を予感

「こんなすばらしい大会に誘って頂いてとても感謝しています。青年のメンバーのエリサーと踊りも大変感動しました。同じ沖縄芸能を一つになって演奏できる吉田ファミリーに感動しました。講演の内容もわかりやすく、平和の重要性と世界が一つになる日がもうすぐ来ている感じがしました。そして、最後のカチャーシーはみんなが踊って大変盛り上がり、主催者とみんなが一つになったようでとても感動しました。この運動にぜひ参加して世界平和に貢献したいです」(うるま市 50代男性)

人類を活かすという聖なる闘いに邁進

「沖縄戦で、日米の若者は殺すか殺されるかの選択を迫られた。しかし、今、私たちの前には、文先生ご夫妻の真の家庭運動が広がっています。これは、私たちの命と真の父母様の愛で、人類を活かすという闘いです。これほど意義深い人生を生きることができる私たちは幸せだと改めて痛感しました。今日の大会を契機に、沖縄から美しく誇れる日本の建設に邁進します」(那覇市 20代男性)

「真のファミリー」に感動のしっぱなし

「エンターテイメントで、すごく感動しました！すべてにおいて真のファミリーで、歌ったり踊ったり本当に良かったです。講演の内容も、国は違っても人としては、平和と幸せを願う思いは皆一緒なんですね！通訳も良かったです。字幕が映し出されてとても解りやすく、良かったです。

抽選会も大盛り上がりで、最後の山羊は、会場から笑いが飛び出して、大受けでした！初めて参加しましたが、感動のしっぱなしでした！紹介して下さいました！さん、本当にありがとうございました」(糸満市 60代女性)

この団体は本物だと実感しました

「紹介者の方とは20年来の、付かず離れずの関係でしたが、先日、徳野会長が沖縄に来られた際の安保セミナーにもものすごく感動しました。この団体は、やはり本物だと実感しました。今日の大会も感動の連続で最高でしたね。これから、積極的に真の家庭運動に参加していこうと思います」

(沖縄市 50代女性)



真の父母様沖縄訪問21周年記念大会 韓鶴子総裁基調講演（要約）

未来の平和世界に向かう道

2014年9月27日
沖縄コンベンションセンター

序文・韓総裁の祈りと心情の内にある沖縄

昨日、南部の平和祈念公園に向かい、沖縄戦で亡くなられた日本、米国などの24万余りの氏名が刻まれた記念碑「平和の礎」にお花を捧げ、犠牲者の方々の冥福をお祈りし、世界の紛争と暴力をなくす決意を強くしました。

今日9月27日は、私の母、韓鶴子・世界平和統一家庭連合総裁が、21年前のこの日、沖縄を訪問し、講演した日です。それから20年以上たちますが、沖縄は常に総裁の祈りと心情の内にあります。

韓総裁が私に教えてくださった2つの貴重な言葉があります。それは韓国語で「カムサハムニダ」と「サランハムニダ」です。その意味は「ありがとうございます」「愛しています」です。この原理を実践することにより、私たちは、全ての紛争の解決、癒し、解放を実現することができるのです。

天の父母様と真の父母様のもと、私たちは真にひとつの家族なのです。そうした皆様への深い愛の心情と永遠なる感謝をこめて、母の基調講演を代読いたします。

天のみ旨解明し世界へ

私の夫、文鮮明総裁は、16歳の時に天の召命を受け、天のみ旨とは何かを探ろうと苦闘しました。日本留学中においても、「天宙主管を願う前に自己主管を完成しよう」をモットーに、真の自我を実現することにこれ以上ない精誠を尽くしました。その結果、青年だった文総裁は、神様の創造目的と創

造原理、そして罪悪と墮落の原因はもちろん、創造本然の人間へと復帰する道、自然と歴史の発展法則を明らかにし、神様のみ旨成就のために世界に出ていきました。

私は、6歳の時、天の新婦という祝福を受け、文総裁と17歳の時に聖婚しました。それ以降、夫と共に、真の父母、真の師、真の主人のモデルを立て、世界の人々を教育することに一生を捧げてきました。神様の解放、人類の救援、平和世界実現のその道は茨の道でしたが、感謝する心で歩きました。

真の家庭は平和世界の核心

今、世界は、新しい未来を開く真の青年運動および真の家庭運動を求めています。天の召命に応じて責任を果たせば歴史の英雄となり、そうでなければ歴史から痕跡もなく消えるでしょう。

人類の歴史は、一つの中心を立てようとされる復帰摂理歴史です。ついに人類は、再臨主がこの地に来られ、天の新婦であるひとり娘を探し出し、真の父母として顕現された祝福の時代を迎えました。人類は、天の父母様の代身者でいらっしゃる真の父母様に会い、侍って従わなければなりません。そうしてこそ、原罪を清算し、愛と知恵に満ちた創造本然の人間に生まれ変わることができるのです。

真の愛を実践する真の善男善女が真の父母様に出会い、真の愛を中心とする祝福結婚式を挙げて真の家庭をつくれれば、その家庭は平和の基地になります。真の家庭は平和世界の核心です。真の家庭が拡張し、真の国家と真の世界の新しい

時代を開いていくのです。

命懸けの挑戦で得られた平和の基礎

私と夫は、平和の実現のためであれば生死を懸けました。

1991年、北朝鮮の国会にあたる万景台議事堂で行った主体思想批判と「天の父母様を中心とする真の愛で統一しなければならない」という発言は衝撃でした。このような峠を越えて実現した金日成主席との会談により、南北統一の新たな章を開きました。

共産圏が膨張の一途をたどっていた1985年、スイスのジュネーブのソ連大使館の前にあったホテルで、夫の文総裁のみ言に従い、世界的な学者たちが、「共産主義は5年以内に滅亡する」という歴史的宣言しました。

そして、数年後、世界大学原理研究会の学生たちが、ドイツのベルリンの壁に向かって行進し、「壁は消え去れ!」と叫びながら、天に祈りを捧げました。

驚くべきことが起きました。ベルリンの壁が崩れたのです。東欧圏の崩壊が引き続いて起き、共産圏の宗主国ソ連が崩壊するという、奇跡のようなことが起き、冷戦終息の大きな力となりました。

大勢の人たちの功績がありました。私は、私たちの青年や学生たちが命懸けで思想運動を展開し、祈りを捧げたことが、天を感化し、感動させたと思います。彼らは歴史の誇りであり、英雄たちです。

大変革の時代に平和の主役として立ち上がろうとすれば、

私たちはどのような生活をしなければならないのでしょうか?

4つの大切な心得

第1に、感謝する生活をしなければなりません。感謝する心には、心と体が統一されます。心を空にして悔い改めるとき、感謝する生活が始まります。

第2に、許す生活をしなければなりません。夫は、アメリカで無念にもダンバリーの監獄に行きましたが、「私のために祈るのではなく、アメリカのために祈りなさい」とおっしゃいました。

第3に、愛する人生を生きなければなりません。真の愛は、ために生きてまたために生き、投入して忘れてしまう愛です。

第4に、一つになる生活をしなければなりません。天の真の愛を中心として本心と良心が一つになり、心と体が統一されなければなりません。家庭で父母と子女が和睦し、世界で国と国が和合し、そして天上と地上が合徳すれば、恒久的な平和理想世界はそのとき実現されるのです。

私と文総裁は、天の父母様に侍る一つの世界のために、確固たる礎石を築きました。

皆さんがこの基盤の上に平和運動を展開すれば、私たちの人生と歴史は、はっきりと変わるでしょう。

感謝は天運を受けるようにし、許しは人の心を開き、愛は人を動かします。万事に感謝し、怨讐までも許し、隣人を私の体のように愛し、平和のために一つになりましょう。皆様! 「真の愛の家庭」により「世界平和」を実現する先頭に立ちましょう。



① 26日夕方の歓迎晩餐会であいさつをする宋龍天総会長 ② 26日夕方の歓迎晩餐会であいさつをする徳野英治会長 ③ 歓迎晩餐会で乾杯の音頭をとる丁鍾湖・13地区長
④ 26日午後、那覇教会を訪問され、文善進世界本部長ご夫妻とともに記念撮影をする教会員たち ⑤⑥ 歓迎晩餐会で歌や踊りを披露する沖縄のメンバー
⑦ 「平和の礎」の前で献花される文善進世界本部長 ⑧ 那覇教会で歓迎の花束を受け取られる文善進世界本部長ご夫妻 ⑨ 韓国人慰霊塔の前で敬礼と黙祷を捧げたご一行

「統一食口こそ真なる平和の勝利者」

文善進様、24万人の戦没者の眠る平和祈念公園で献花

9月26日午後、真夏を思わせる、暑い日差しが降りそそぐ中、文善進・世界平和統一家庭連合世界本部長ご夫妻が沖縄入りして最初に向かわれたのは、那覇市内から車で40分ほど離れた「平和祈念公園」(糸満市)です。文善進世界本部長ご一行は、公園に到着されると24万人以上の戦没者の氏名が刻まれた「刻銘碑」が放射状に立ち並ぶ「平和の礎(いしじ)」の記念碑へ。代表して文善進世界本部長が献花された後、全員で敬礼し、黙祷を捧げました。

記念碑から振り返ると、沖縄の青い海と、蒼い空が果てしなく広がる絶景が目飛び込んできます。大地に流された多くの人間の血と涙と、大自然の美しい光景とのあまりのギャップに改めて平和の貴さを噛みしめるひと時となりました。

ご一行は、すぐさま歩いて数分の場所にある「韓国人慰霊塔」を訪れ、文善進世界本部長が献花。全体で敬礼と黙祷を捧げ、故郷を遠く離れ無念の死を遂げた韓国人戦没者の冥福を祈りました。

那覇教会を訪問

ご一行は、そのまま那覇教会へ向かいました。同日午後4時半、地元の教会員約50人が拍手と笑顔で出迎えました。真のお母様が21年前の沖縄訪問の際に立ち寄られ、地元食口と親しく交流されたまさにその場所です。

文善進世界本部長ご夫妻は、教会ロビーで歓迎の花束を受け取られた後、地元食口が丹精込めて育ててきた熱帯植物「ガジュマル」(樹齢120年)と一緒に記念撮影。

続いて、教会5階の礼拝堂へ。礼拝堂では、ご一行を代表して徳野英治会長が、文善進世界本部長を沖縄の地に送ってくださった真のお母さまへの感謝とともに、翌日に控えた沖縄大会の大勝利を願う祈りを捧げました。

和やかな雰囲気の中、全体で記念撮影をした後、文善進世界本部長は集まった地元食口を前に、こう語られました。

「きょう私は平和祈念公園を訪れましたが、戦争の現実を目の当たりにし、あまりの悲しみと惨状に衝撃を受けました。

しかし、私たちの教会では、韓国人であろうが、日本人であろうが、ひとつの家族になっています。かつて怨讐国家だった国々のメンバーでさえ、私たちの教会では平和という共通の目的に向かい、絶対的な愛と献身の精神で力を合わせています。

私は皆様に対し、心から『サランハムニダ』『カムサハムニダ』の言葉を贈りたいです。皆さんこそ、真なる平和の勝利者です」

それを受け、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長が「真のお母さまが、文善進様を沖縄に送って下さいました。皆さん、本当にうれしいでしょう」と呼びかけると、集まったメンバーたちからは力強く「ハイッ」の返答。

最後は、宋総会長の掛け声に合わせてながら、集まった全員が拍手をしながら「真のお母様、カムサハムニダ!」と大声で叫びました。

那覇市内のホテルで歓迎晩餐会

文善進世界本部長ご夫妻の沖縄訪問に感謝し、9月26日夕、那覇市内のホテルで歓迎晩餐会が開催され、約100人が集まりました。

晩餐会で、徳野英治会長が挨拶。文善進世界本部長が真のお母様に侍られる姿を見ながら、「それを見るだけで幸せになり、理想的な母と娘の姿とはこういうものだ」と実

感しました」と説明し、「善進様を見習って、私たちも最高の孝行を尽くしていきましょう」と語りました。

一方、宋龍天総会長は歓迎の辞の中で、「文善進世界本部長が明日(27日)、沖縄大会で代読される真のお母様のメッセージは、日本全国民に送るとも重要なメッセージです」と強調。「そのメッセージを通じて、真の父母様と一つとなって、これまでの家庭再建運動をいっそう高い次元の運動に昇華させなければなりません。この沖縄から、その真の家庭運動を出発させ、日本全国へと拡散していきましょう」と呼びかけました。

最後に文善進世界本部長が登壇。感謝の言葉を述べられたうえで、改めて平和祈念公園を訪れたことに触れられ、「私たちが家族として一つになれていないときは、人類はどれほどの殺戮を繰り返すことができるかを目の当たりにしました。しかし、真の父母様のみ言というのは、絶対的な無条件の愛に基づき、どのような違いや壁があったとしても、どのような悲しい過去があったとしても、それを超えることができる。許し、愛し、一つになることを通して平和を実現することができる。これが真の父母様の核心的なみ言であり、私たち教えてくださった内容であり、皆様が生きてきた人生だと思えます」と語られました。

その後、文善進世界本部長ご夫妻を中心に参加者が記念撮影し、晩餐会は閉会しました。